

第 2 分科会

景観や環境に配慮した砂防施設計画について

平成17年度砂防研究報告会

第二分科会

景観や環境に配慮した 砂防施設計画について

背景

- ハード対策で対応する場合には、景観問題、自然環境問題は、永久に付随する問題である。
- 景観
 - ・既存の景観に手を加える
 - ・違和感を与える
 - 違和感を最小限に抑える、調和を図る
 - ・逆に、安心感も与えてもいる
- 自然環境
 - ・既存の自然環境に手を加える
 - ・その影響を憂う人々
 - ・地域の安全 ⇄ 自然環境
 - 影響を回避・最小限に抑える
- コストの問題、どこまで配慮すべきかの程度問題、どのように事業を進めていくのか、合意形成、アカウンタビリティ、など

今後の課題(自然環境の問題)

- 合意形成・アカウンタビリティ
 - ・対話を重ねることで、理解してもらうことができる場合も多い
 - ・説明の際、事業者側のデータ不足が問題
 - ・合意形成を図る場合、どこまでの範囲の人々を対象にすれば良いのか
- 溪流の連続性の確保(堰堤のスリット化)
 - ・流木の除去等の維持管理が必要である
 - ・モニタリングの必要性
- 情報・ノウハウの共有化
- 外来生物法

今後の課題(景観の問題)

- 景観評価の事例
 - ・グリーンベルト→長い目で見ていく必要がある
 - ・日光砂防の例→評価が人によって分かれた
(今後同様な事例が出た場合どう調整していくべきか)
- 修景資材・・・情報を幅広く収集する

今後の課題(共通)

- 施工時の事業者側の説明、施工業者・作業員の認識
- 維持管理の問題

